

研究分野	資源評価	機関・部	水産総合研究所・漁場環境部
研究事業名	資源評価調査委託事業(浮魚資源調査)		
予算区分	受託研究((独)水産総合研究センター)		
研究実施期間	H12～H22		
担当者	田中 淳也・小泉 広明		
協力・分担関係	なし		

〈目的〉

イワシやサバなどの浮魚類の資源安定のための基礎資料を得る。

〈試験研究方法〉

調査地区 外ヶ浜町平館  
 調査回数 毎月1回  
 対象魚種 マイワシ、カタクチイワシ、サバ類(マサバおよびゴマサバ)  
 対象漁法 小型定置網  
 調査内容 体長・体重測定  
 漁獲量集計

〈結果の概要・要約〉

○マイワシ

図1にH17年からH21年の5カ年の漁獲の推移を示した。漁獲量はH18年の407tをピークに減少し、H21年は38.7tと5年平均の26.2%、前年の70%となった。図2にH21年の月別漁獲量の推移を示した。H21年は5月に漁獲がピークとなった。ピーク時の被鱗体長組成は、113mm～167mmの範囲で、モードが131mm～137mmと140mm～146mmにあった(図3)。

○カタクチイワシ

図4にH17年からH21年の5カ年の漁獲の推移を示した。漁獲量は、H20年は1914tと好漁となり、H21年は699tと5年平均の116.7%、前年の36.5%となった。図5にH21年の月別漁獲量の推移を示した。H21年は5月～6月に漁獲のピークとなった。漁獲が最も多かった5月の被鱗体長組成は、73mm～127mmの範囲にあった(図6)。

○サバ類

図7にH17年からH21年の5カ年の漁獲の推移を示した。漁獲量はH19年以降の8tを境に増加傾向にあり、H21年は61.2tと5年平均の110.1%、前年の148.2%となった。図8にH21年の月別漁獲量の推移を示した。H21年は11月～12月に漁獲のピークとなった。漁獲が最も多かった12月のマサバの尾叉長組成は、160mm～244mmの範囲で、モードが180mm～192mmと208mm～212mmにあった(図9)。

〈主要成果の具体的なデータ〉

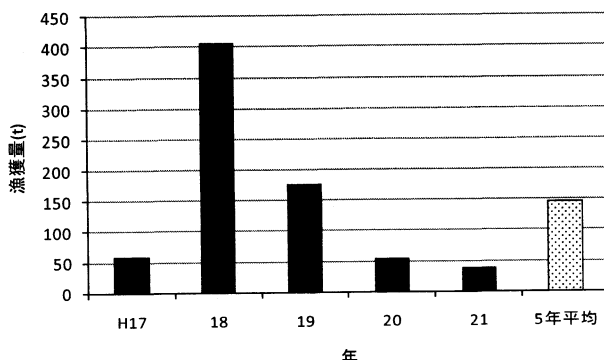


図1 マイワシ漁獲量経年変化

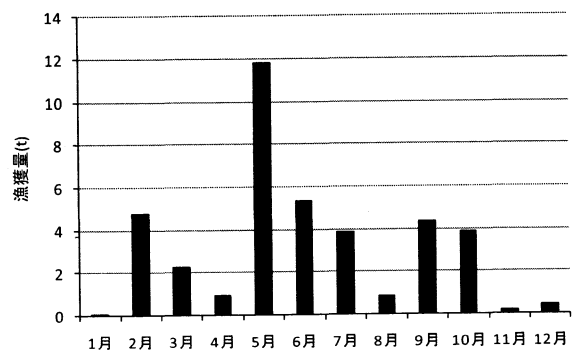


図2 マイワシ月別漁獲量

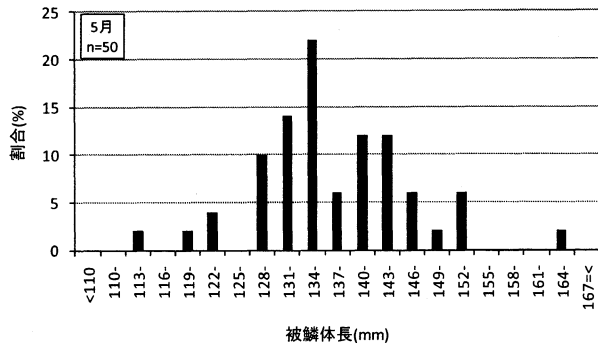


図3 マイワシ被鱗体長組成

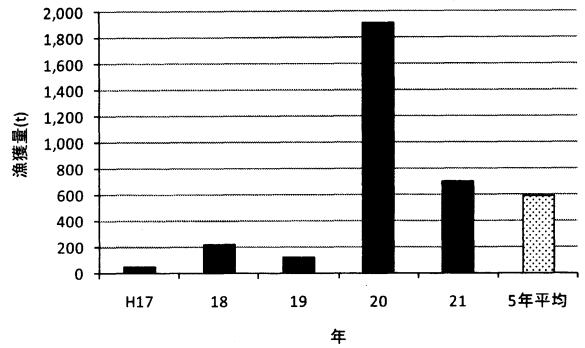


図4 カタクチイワシ漁獲量経年変化

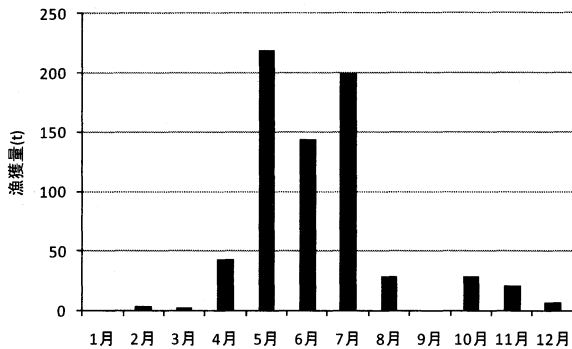


図5 カタクチイワシ月別漁獲量

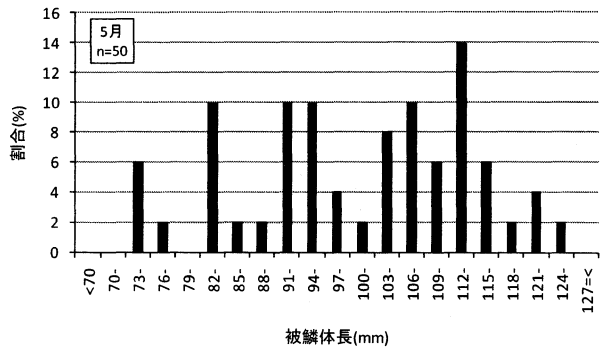


図6 カタクチイワシ被鱗体長組成

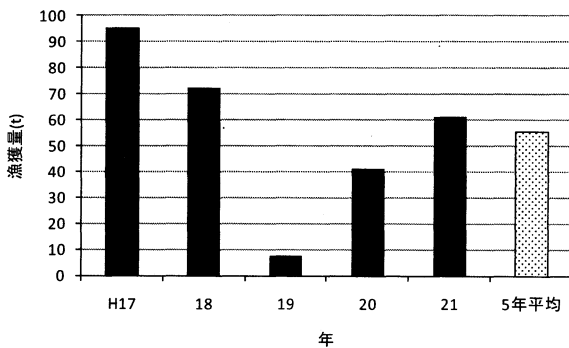


図7 サバ類漁獲量経年変化

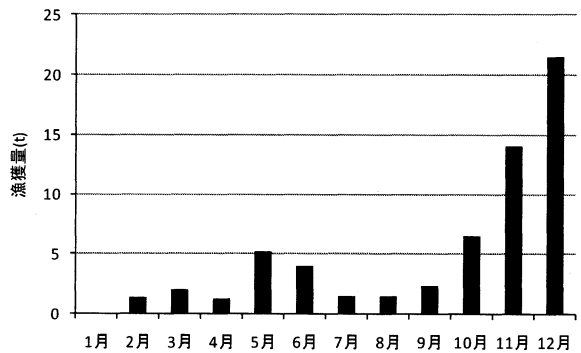


図8 サバ類月別漁獲量

〈今後の問題点〉

調査地区を陸奥湾湾口部の平館地区に限っているが、青森県全体の浮魚資源状況を把握するため、八戸港の資源情報を入手する必要がある。

〈次年度の具体的計画〉

調査を継続する。

〈結果の発表・活用状況等〉

平成21年度第1回太平洋イワシ、アジ、サバ等長期魚海況予報会議及び平成21年度第2回太平洋イワシ、アジ、サバ等長期魚海況予報会議で報告した。

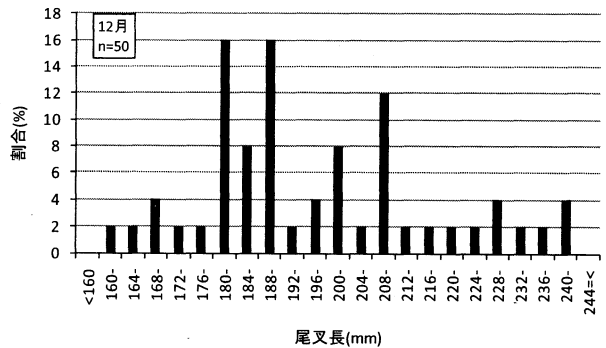


図9 マサバ尾長組成